

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成19年11月28日)

事業コード	H19-建-終-7		区 分	国庫補助 (県単独)
事業名	ふるさとづくり推進事業		部 局 課 室 名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築事業(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主)湯沢栗駒公園線		担 当 課 長 名	加藤 修平
箇所名	湯沢市 五才沼		担 当 者 名	主幹(兼)班長 伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	4	施 策 名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	2	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業の背景及び目的	本路線は、国道13号と国道398号を連絡し、湯沢雄勝地域が進めている雄湯郷(ゆうとぴあ)ランドへの観光・交流を支える重要な幹線道路である。また、栗駒国定公園の裾野を通り、豊富な観光資源(泥湯・小安温泉、栗駒山等)へのアクセス機能を有している。しかし、当該箇所は狭隘(Wmin=5.0m)で急坂路(imax=11%)、屈曲部(Rmin=3.8m)が連続することから早急な整備が望まれていた。 そのため、交通隘路区間の解消、防災対策・危機管理の充実、冬期末改良区間の解消のため道路整備を行ったものである。					
	事業期間	前回 H8年 ~ H17年 終了 H8年 ~ H17年	総事業費	前回 15.3億円 終了 14.7億円	国庫補助率 -	
事業規模	前回 延長L=1,140m 幅員W=6.0(8.5)m 終了 延長L=1,140m 幅員W=6.0(8.5)m					
	事業費内訳内容及び要因変化	前回評価計画		最終	増減	理由
事業費		1,528,000	1,468,000	-60,000		
経内費		工事	1,334,318	1,277,270	-57,048	縦断線形を見直したため。
		用補	34,624	34,624	0	
		その他	159,058	156,106	-2,952	
事業内容		調査・設計 用地買収補償 改良舗装工 橋梁工	調査・設計 用地買収補償 改良舗装工 橋梁工			
コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)				
最終コスト 終了C / 前回評価C = ( 0.96 )		【便益】 事業費の減額に伴い、費用便益が上がった。				
費用便益 前回評価B / C = ( 4.27 ) 終了B / C = ( 4.40 )		【費用】 縦断線形を見直したことにより、土量が減じ、工事費が減額となった。				
目標達成率	指標名	県道改良率				
	指標式	改良率(改良済延長/実延長)				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 (無)	
	目標値a	68.8%		データ等の出典	あきた21総合計画H18目標 H18道路現況調書	
	実績値b	69.5%				
	達成率b/a	101.0%		把握の時期	平成19年10月	
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む -					
自然環境の変化	法面の緑化に関して、生態系を考慮し、在来種を多く配合している。					
社会経済情勢の変化	平成17年3月22日に旧湯沢市・稲川村・雄勝町・皆瀬村が合併し、湯沢市となった。					
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	現在は県が維持管理しているが、路肩の除草に関しては、周辺部落と調整し、地元の協力を得ることが必要と思われる。					

住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象 (受益者) 一般県民 (時期: 平成19年 8月) 満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に ) 満足度の状況 当該区間を利用する地域住民から、道路整備により安全に走行できるようになった旨の意見があった。
上位計画での位置付け	あきた21総合計画において「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」の位置づけあり。
関連プロジェクト等	地域振興プロジェクトである「県内外との交流を促進する道路網の整備」の位置づけあり。
前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留又は中止 指摘事項 指摘事項への対応

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 ① A B C 住民アンケートにおいて、安全な交通が確保されたという意見が多く出されていた。さらに、満足・やや満足との意見が81%であった。	① A
	事業の効果 ① A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満	B
	当該事業は計画通り進捗し、あきた21総合計画の 県道改良率目標を上回った。	C
効率性	事業の経済性の妥当性 ① A B C B/Cが4.4となっており、事業の経済性においては妥当である。	① A
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし	B
	-	C
総合評価	① A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 計画に沿って着実に事業が進捗し、地域住民の交通安全確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、事業は妥当である。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業開始前の予備調査や設計段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減についても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。

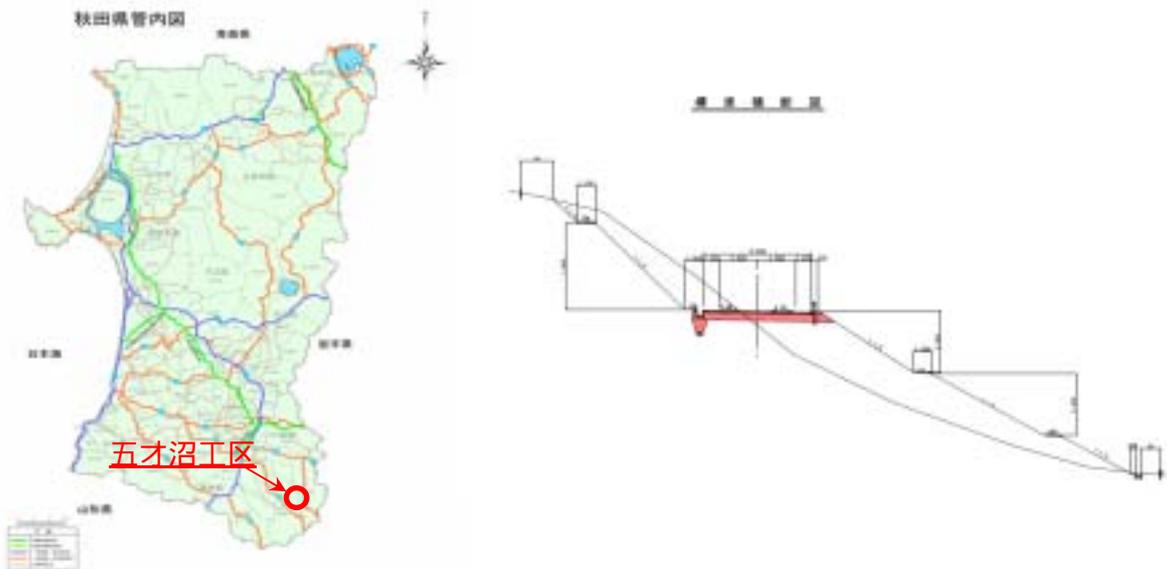
4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	

# 主要地方道 湯沢栗駒公園線 五才沼工区



整備前



整備後

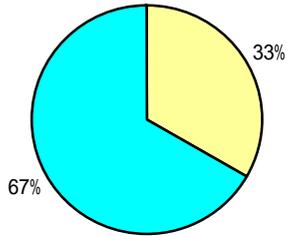
# 道路整備の効果に関するアンケート結果

(主)湯沢栗駒公園線 五才沼工区

配布枚数: 100 枚  
回収枚数: 27 枚 (回収率 27.0%)

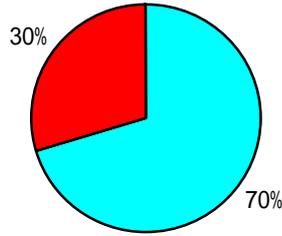
## 回答者の状況

住居地区



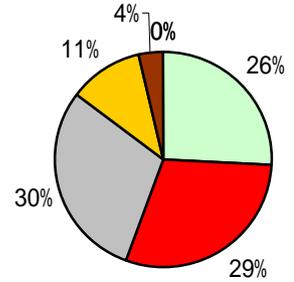
■ 小安 ■ その他

性別



■ 男性 ■ 女性

年齢階層

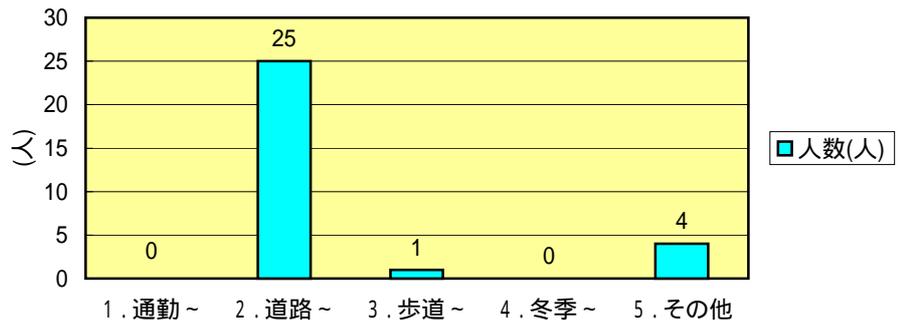


■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代  
■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

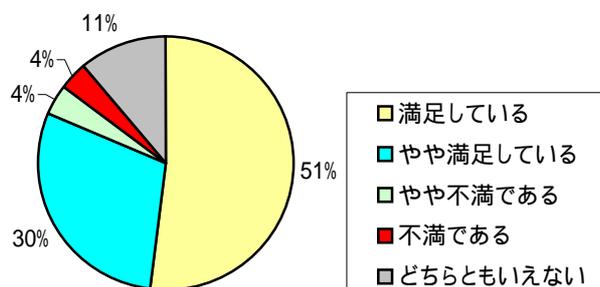
## 調査結果

(設問1) 「(主)湯沢栗駒公園線 五才沼工区」の道路整備工事が完成したことにより、どのような効果がありましたか。 複数選択も可。

1. 通勤、通学等の時間が短縮された。
2. 道路が広くなったので、安全に走行できるようになった。
3. 歩道が整備されて、通学通勤の安全が確保された。
4. 冬期交通の安全が確保された。
5. その他



(設問2) あなたは「(主)湯沢栗駒公園線 五才沼工区」の道路整備に満足していますか。



■ 満足している  
■ やや満足している  
■ やや不満である  
■ 不満である  
■ どちらともいえない